

日本視機能看護学会

会報 第 21 号



一般社団法人

日本視機能看護学会

Japan Academy of Ophthalmic Nursing

目次

1. 理事長あいさつ
2. 東京アイフェスティバル・ロービジョンサポートフェアに参加して
3. 第40回日本視機能看護学会学術総会を終えて
4. 第41回日本視機能看護学会学術総会開催にあたり
5. 第16回日本視機能看護学会地方分科会報告
6. 第17回日本視機能看護学会地方分科会のご案内
7. Zoom 意見交換会(会員交流会・セミナー交流会)報告
8. 2024年度ナースングプログラム報告
9. 編集委員会より皆様へのお願い
10. 会員アンケートのお願い
11. 一般社団法人日本視機能看護学会の概要
12. 新法人への移行に関わる変更点と年会費納入のお願い
13. 2025年度 事業計画書
14. 編集後記

ご挨拶

日本視機能看護学会

理事長 永野 美香

平素より日本視機能看護学会に対し、格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。本学会は昨年設立 40 周年迎え、この記念すべき年に、眼科杉田病院様主管にて第 40 回日本視機能看護学会学術総会を開催し、参加の皆様と共に知見を広げる有意義な時間を過ごす事ができ、大盛況の中、終了いたしました。眼科杉田病院の杉田威一郎先生、岩崎美穂看護師長様をはじめご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

この節目にあたり、令和 6 年 10 月 1 日をもって、「一般社団法人日本視機能看護学会」を設立し、学会の主体を新法人に移転して令和 7 年 1 月 1 日の新年度より、新たな一步を踏み出す事となりました。任意団体から法人化することにより、本学会の社会的地位がより明確になり、社会的信用、認知度も増し、今後の学会活動をおこなってゆく上で非常に重要な意味を持ちます。これにより、より多くのリソースを活用し、会員の皆様に対して質の高い教育や研修、情報提供を行う事が可能となると考えております。また、会員の皆様への情報発信の円滑化および電子化の推進のため、学会会員管理サービスをクラウドで利用できるツールとして学会バンクを導入し会員利便性の向上に努めていきます。情報発信の円滑化のために会員の皆様には、会員登録内容の更新とともにメールアドレスの登録をお願いしたくご協力をお願い申し上げます。

今年度の運営計画としては、第 41 回学術総会は先進会眼科様主管にて、日本臨床眼科学会終了後同日に大阪にて開催予定としております。今年もたくさんの皆様のご参加により現地での交流ができる事を願っております。

また、地方分科会開催においては、昨年の第 16 回は現地開催とし、グループワークの復活により親近感のある交流の場となりました。第 17 回地方分科会では東京での現地開催にて貴重なご講演とともに、参加者のご希望のテーマごとにグループワークも予定し、有意義な会となりますよう努めてまいります。

今後、有効な教育企画の実現に向け、益々多くの方々に会員になっていただき、眼科看護に関して、より活発な研究、意見交換の場とし参画していただきますことを願っております。今回の法人化に伴い、社会的な責務もより重いものとなりますが、皆様のご支援に応えるためにも、視機能看護の発展のために、会員の皆様との繋がりを大切に、理事会が中心となって運営していきたいと考えております。これからも、皆様のご要望を大切にしながら学会の発展に尽力してまいりますので、引き続き支援を賜りますようお願い申し上げます。

改めまして、今まで当会を支えて頂きました日本眼科医会、各地の眼科医師会の先生方、賛助会員の皆様、学会企画において講師を務めて下さった先生方に心より感謝申し上げますとともに、今後とも日本視機能看護学会の発展のためにご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

東京アイフェスティバル・ロービジョンサポートフェアに参加して

日本視機能看護学会

名誉理事長 大音清香

猛暑の続いた日々から少し涼しさを感じてきた 10 月 12 日(土)～10 月 13 日(日)に、新宿西口イベント広場において、2024 年度 Tokyo Eye Festival 並びにロービジョンサポートフェアが開催されました。

この催しは、東京都眼科医会と東京都の共催で、今回はロービジョンサポートフェアも同日開催のため、多くのロービジョンの方々が参加されました。

コロナ禍の影響も徐々に落ち着き、気候も穏やかとなり、2 日間で約 2,000 名以上の参加者があったと伺っています。会場内では、眼科医によるミニレクチャー、眼科に関する相談コーナーの設置、視能訓練士による視力検査、各企業の取り組み、社会福祉の活動についての説明、就労に関してや学校進学・進級の説明、日本盲導犬協会からは盲導犬との誘導体験など盛りだくさんの企画が催されました。なかでも、ミニチュア版ブラインドサッカーのスペースはお子さんたちの人気となり、スタンプラリーも大変賑わっていました。

日本視機能看護学会では、「点眼コーナー」として、効果的な点眼の仕方、お子さんの点眼の仕方、そして点眼に関して質問の多い事柄は、Q&A について動画で供覧させていただきました。動画をご覧の際には、じっくり座りご自身の点眼のやり方について確認して欲しい、今まで緑内障で点眼を続けてきたが一度も点眼指導を受けることが無くて、今回初めて点眼法を動画を見て、本当に良かった等のお声もいただきました。

特に点眼薬をさした後は涙点を軽く押さえるその場所や、何分間押さえているのかなど質問されていました。点眼については、さし方や保管方法等、様々な関心を持っておられることも再認識でした。

近年、アイフレイルの活動について認識されつつありますが、緑内障の早期発見のためには定期的な眼科検診が重要です。この Tokyo Eye Festival は、来年も同会場で 10 月 4 日～10 月 5 日に開催されます。多くの方々に 10 月 10 日の目の愛護デーを意識して、目の重要性を再認識していただきたいと切に思います。

(写真左から①会場全体の雰囲気、②ミニレクチャーでは熱心に傾聴 ③点眼コーナーの動画供覧)



第40回 日本視機能看護学会学術総会

会長 岩崎美穂

第40回 日本視機能看護学会 学術総会を2024年10月26日(土)・27日(日)の2日間、名古屋市の日ホール&カンファレンスで開催いたしました。

40回の節目となりました今回の学会テーマを「眼科看護のこれから～変わらないもの変わりゆくもの～」とし、約650名の方にご参加いただきました。

特別講演は矢上晶子先生に「眼科看護師のためのアレルギー講座：眼科領域と関連するアレルギー疾患と最新治療」、新井美千代先生に「網膜色素変性症患者の告知受け入れと心の変遷」をご講演いただき、アレルギーについての知見を深め、中途失明の方の体験談より眼科看護を改めて考える機会になったと思います。

基調講演は「日本視機能看護学会のあゆみ」を大音清香先生に眼科医療の進歩からこれまでの眼科看護の変遷をご講演いただきました。ご講演と40周年記念展示から日本視機能看護学会40年の歴史と重みを感じました。

シンポジウムは「眼科医療の最先端」「日本視機能看護学会のこれから～医療チームとして視機能障害患者と向き合う～」の2テーマでそれぞれご活躍の先生方にご講演いただきました。角膜移植・網膜剥離・斜視の最新治療のトピックスから看護のポイント、ロービジョン看護・チーム医療の中での看護師の役割などについてディスカッションが行われました。

セミナーではランチョンセミナー・スイーツセミナー・モーニングセミナーで医療事故など、より実践的なテーマでご講演いただきました。

39題エントリーいただいた一般口演では日頃の研究成果が発表され、それぞれの講演・セミナーで活発な意見交換が行われました。

今回、ロービジョンの展示・体験コーナーを企画いたしました。

ドライビングシュミレータ体験・白杖体験・盲導犬歩行体験には

たくさんの方にご参加いただきました。

学術総会で「見て、聴いて、さわって」感じたことが皆様の眼科

看護のこれからの繋がることを願っております。



約2年前に大会長を拝命し、これまでたくさんの方に支えてもらい、学び多き貴重な経験をさせていただきました。

本学会にご参加いただいた皆様、ご講演・座長をお引き受けくださいました先生方、ご協賛・ご協力いただきました皆様、すべての皆様に改めまして感謝申し上げます。

最後になりましたが、今後の日本視機能看護学会の更なるご発展と、皆様のご健康、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



第 41 回 日本視機能看護学会学術総会開催にあたり

第 41 回 日本視機能看護学会学術総会

会長 中山麻沙美

この度、第 41 回日本視機能看護学会学術総会を 2025 年 10 月 12 日(日)13(月祝)に開催させていただきます。現地開催の後にオンデマンド配信を行います。

今回、12(日)は日本臨床眼科学会終了後の同日開催とさせていただきます。ご理解ご協力を賜りました学会長の愛知医科大学医学部眼科学講座教授、瓶井資弘先生なたびにご関係者の皆様に御礼申し上げます。

世界的パンデミックから明けた今、明るい未来を取り戻すべく医療従事者一丸となり向上心・探求心を高める強い意志を、本学術総会を通じて皆様と共感したいと考えております。

本学術総会のメインテーマを「Wow! vision～ 想像から創造へ～」と致しました。

眼科看護のこれからを皆様と共に創り、共に歩みたいという思いをテーマへ込めています。未来を創ることは難しいことではありますが、今の一歩先の将来を皆様と共に創り歩むことは出来ると信じております。

近年、医療はサービス業であると言われ医療への期待はますます高まってきており、質の高い看護や接遇が求められ医療機関は選ばれる時代へと変化しています。招待講演では信頼される医療機関となるために、満足度向上についての講演をいただく予定です。また、シンポジウムでは社会問題として深刻化されているペイシエントハラスメントの対応や対策についての講演も予定しております。併せて、コメディカル向けのプログラム等も準備を進めております。

今回、学術総会を開催するにあたり、ご支援いただいております関係者の皆様に深く感謝申し上げます。大阪梅田にて皆様へ実りある有意義な時間を過ごしてもらえよう、参加者の皆様が一つでも多くの発見をし実践へ繋げて頂けることと願い、スタッフ一丸となり誠心誠意努めてまいります。皆様の日々の実践や学びを、ぜひ本学術総会でご発表いただきたいと思ひます。たくさん的一般演題の応募とご参加を心よりお待ちしております。

第 41 回 日本視機能看護学会学術総会のお知らせ

- 日 時 2025 年 10 月 12(日)～13 日(月・祝)
- 会 長 中山 麻沙美(医療法人先進会 先進会眼科 飯塚本院 統括師長)
- 主幹責任者 岡 義隆 (医療法人先進会 理事長)
- 場 所 大阪 梅田サウスホール <https://www.k-gakkai.jp/2025jaon/>
- 学会事務局 医療法人先進会 先進会眼科 飯塚本院

第16回日本視機能看護学会地方分科会報告

■日時:2024年7月15日(月・祝) 10:00~14:30

■会場:アクロス福岡 現地開催(参加者50名)

■住所:〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号

■共催:日本視機能看護学会・参天製薬株式会社



プログラム

【第1部】

講演Ⅰ 「緑内障アドヒアランスについて」

演者:内藤 知子先生(グレース眼科クリニック 理事長)

講演Ⅱ 「手術室におけるスタッフ教育について」

○眼科手術室の教育計画について

演者:大神淑恵先生 (林眼科病院 手術室師長)

○器械出しのポイントについて

演者:宇野由梨奈先生(林眼科病院 手術室)

ランチョンセミナー 「白内障周術期のドライアイケア」

演者:羽入田 明子先生(慶應義塾大学医学部眼科学教室 特任講師)

【第 2 部】 グループワーク「点眼指導について」

講演Ⅰでは緑内障のアドヒアランスを高めるための患者指導における確認のポイントについて、点眼薬の副作用などから起こる症状を見逃さない事の重要性について、事例をもとにご講演頂きました。アドヒアランスを高めるためには、点眼開始に伴う患者さんの身体的な変化やライフスタイルの変化をきちんとお聞きし、点眼継続ができない理由について確認していく必要があります。また、医師との医療連携により点眼処方についても考慮する事ができるため、患者のアドヒアランスを高めるための看護師の役割は重要である事を実感しました。

講演Ⅱでは手術室の教育計画について、チーム制を用いた効果的な教育計画を目指して日々見直しを行い、評価方法についても特に新人教育を中心とし、スタッフのモチベーションも考慮しながら管理的な視点でどのように教育を進めているかご講演頂きました。更には、器械だしのポイントについて、新人への教育の中でここは注意！といったポイントを手術の流れに沿って具体的にどのように教育をすすめているかご講演頂きました。

ランチョンセミナーでは、白内障周術期のドライアイケアの必要性について、どのような機序で起こり得るか、視力への影響など、患者さんへ周術期に起こりうる症状として、患者指導に活かすことができるご講演でした。

グループワークは、ひとりで悩まない、施設で悩まないというコンセプトにより継続的に行っております。高齢な患者さんへの点眼指導は、施設的环境が違ってもやはり共通の課題であり、その悩みに共感しながらも、各施設での工夫などを共有する事ができました。グループワークは特に地方分科会開催においては、大変親近感をもって、情報交換ができる場として有意義であったとのご意見を頂いておりますので、継続していきたいと考えております。

第17回日本視機能看護学会地方分科会のご案内

■日 時:2025 年 6 月 15 日(日) 10:00~15:00

■会 場:御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター2F Terrace Room

■住 所:〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4丁目6

■参加費: 会員 無料 非会員 2,000 円

■共 催:日本視機能看護学会・千寿製薬株式会社

■お申込 <https://gkb.jp/visitor/seminar/272>

■プログラム

【第1部】

特別講演 座長:井上賢治先生(医療法人社団済安堂 井上眼科病院 院長)

講演Ⅰ 「事例によるロービジョンケアの展開」

演者 : 鶴岡 三恵子先生(医療法人社団済安堂 井上眼科病院)

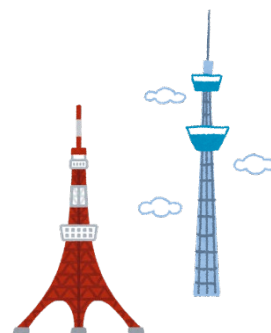
講演Ⅱ 「緑内障 Update ～コメディカルに知っておいてほしいこと～」

演者 : 齋藤 雄太先生(昭和大学医学部眼科学講座 准教授)

【第2部】

グループワーク (ご希望のテーマ毎にグループワーク)

テーマ:点眼指導、感染対策、患者に寄り添う看護 患者の治療中断・放置を防ぐための取り組み、
高齢者の患者指導



日本視機能看護学会 Zoom 意見交換会(会員交流会・セミナー交流会) 報告

【第 20 回セミナー】 (2024 年 2 月 17 日)

眼科におけるスタッフ教育について

～定着率向上のための教育や勤務調整の工夫について～

【第 21 回セミナー】 (2024 年 4 月 20 日)

眼科手術室看護師のスタッフ教育について

【第 22 回セミナー】 (2024 年 8 月 31 日)

眼科看護の研究を深めよう ～症例報告から～

【第 23 回セミナー】 (2024 年 12 月 14 日)

退院支援を含めた多職種連携と困難事例に対する対応

2024 年もセミナー交流会を中心とした意見交換会にて企画を行いました。

主にはスタッフ教育に着目しセミナーおよび情報交換会として、各施設の取り組みについてご紹介頂きました。定着率向上のための教育や勤務調整については WLB も含め、各施設が苦慮している事も共有できました。スタッフのモチベーションアップのための取り組みが課題となり、各施設の評価をどのようにしているかも含めアイデアをお聞きできました。第 21 回では特に関心が深い手術室看護師の教育について、井上眼科病院の手術室師長の小杉先生よりご講演を頂き、ベテラン看護師と新人看護師の目線の違いについての研究をすすめられた結果を含め、新人教育をどのように効果的に進めておられるかについて学ぶことができました。今後看護師の教育において大きな課題となりうると考えますので、今後もスタッフ教育についてはテーマとして企画していきたいと考えます。(次頁につづく)

眼科看護の研究を深めようというテーマでは、看護研究をどのように進めていけばよいかについて、今回は大音名誉理事長より「無理なく、無駄なく、活気へ気づけば看護研究に」というテーマにてご講演を頂き、看護研究のすすめ方、看護研究のストレスについて、参加の皆様からのご意見も参考としながら、看護研究をすすめていけない各施設の実情なども共有しながら、参加の皆様と検討していきました。

看護研究を進めていく上で、特にクリニックでの環境下ではなかなか困難な状況もあり、学会の中で今後共同研究などについても検討していく必要があるというご意見も頂きました。また、事例検討という視点で今後情報交換会では、視機能看護の質の向上に向けたテーマについても、教育企画としてすすめていく事も必要であると感じました。

会員の要望として多かった、地域連携についてのセミナーでは、昨年に引き続き井上眼科病院の医療ソーシャルワーカーの永沼先生に、セミナーも含め各施設からの相談事項について、事例検討という形でアドバイスを頂きながら、情報交換を行う事ができました。

まだまだ、地域連携に関する患者さんへの指導や支援について悩まれている施設も多く、今後も教育企画として継続的に行っていきたいと考えております。2024 年では事例検討という方法を取り入れた情報交換会セミナー交流会を中心に企画させていただきました。2025 年からは、教育企画として情報交換会セミナー交流会を中心に運営をすすめて行きたいと考えます。はじめての施設の方についても、情報交換の場に参加して頂くのみでも大変有意義であったとご意見を頂いております。

「隣の施設はどうしているの」という視点で、昨年同様「ひとりで悩まない、施設で悩まない」というテーマで、多くの情報を知り患者さんのケアの実践に繋がる事を願って、今後も企画をすすめていきたいと考えます。

あらためまして、ご講演およびアドバイザーとしてこの交流会にご参加いただき、さまざまな助言を下された講師の先生方に心より感謝申し上げます。

また、積極的に参加して下さった会員の皆様からのご意見もとても貴重であり、会員の皆様のご協力にも感謝申し上げます。この繋がりを継続しながら、視機能看護を形にしていければと思いますので、今後ともたくさんの方のご参加をお待ちいたしております。

2025 年も会員の皆様からのご意見を参考にしながら、視機能看護における課題や学びを中心にセミナー企画と情報交換会をしていきたいと考えております。

2024 年ナースングプログラム 報告【教育委員会】

◆第 47 回日本眼科手術学会学術総会

■日 時:2024 年 2 月 2 日(金)~4 日(日)

■会 場:国立京都国際会館

■テーマ:いかに安全に、安寧に手術を繰り返していくのか！

座長 石井 清先生(さいたま赤十字病院)

大音 清香先生(井上眼科病院)

演者 1.安全・安寧な手術のために 執刀医の立場から 山崎 駿先生(獨協医科大学病院)

2.大学病院の医療連携を考慮しての看護師の役割 金森 恵美先生(埼玉医科大学病院)

3.眼科専門病院においてアイセンターの特徴をいかしつつ安全・安寧の取り組み

中西 雅美先生(神戸市立神戸アイセンター病院)

4.眼科単科の看護師の取り組みと医療連携のあり方 亀山 理穂先生(海谷眼科)

◆第 39 回 JSCRS 学術総会

■日 時:2024 年 6 月 28 日(金)~30 日(日)

■会 場:福岡国際会議場・福岡サンパレスホテル

●視能訓練士/ナースングプログラム 1

■テーマ:白内障・屈折手術検査のコツと注意点

座長 早田 光孝先生(昭和大学藤が丘病院)

川守田 拓志先生(北里大学病院)

演者 ・術前の視機能評価

三田 哲大先生(金沢医科大学病院)

- ・乱視矯正のポイント 齋藤 彩先生(山王病院アイセンター)
- ・眼軸長検査のポイント 徳田 祥太先生(宮田眼科病院 鹿児島)
- ・CL ユーザー・屈折矯正手術後症例の検査ポイント 鳥居 秀成先生(慶應義塾大学病院)

●視能訓練士/ナーシングプログラム 2

■テーマ:IOL 選択におけるコメディカルの役割

座長 比嘉 利沙子先生(井上眼科病院)

長谷川 優実先生(筑波大学附属病院)

- 演者
- ・IOL 適応判断のポイント 永田 万由美先生(獨協医科大学病院)
 - ・患者説明のポイント 渋谷 恵里先生(金沢医科大学病院)
 - ・患者のニーズ沿った IOL の使い分け 柴田 駿介先生(林眼科病院)
 - ・IOL 度数決定のポイント 飯田 嘉彦先生(北里大学病院)

●視能訓練士/ナーシングプログラム 3

■テーマ:安全で効率的な手術の実際

座長 小早川 信一郎先生(日本医科大学武蔵野小杉病院)

小杉 剛先生(井上眼科病院)

- 演者
- ・受診から手術までの流れと信頼関係構築への試み 伊藤 格先生(市立室蘭総合病院)
 - ・安全に手術をおこなうために 田邊 章浩先生(帯広協会病院)
 - ・多職種連携について(看護師の視線から) 長谷川 久美先生(日本医科大学武蔵野小杉病院)
 - ・眼内レンズ選択における視能訓練士の役割 佐伯 めぐみ先生(慶應義塾大学病院)

●視能訓練士/ナーシングプログラム 4

■テーマ:手術室でのコメディカルの役割

座長 西村 栄一先生(昭和大学藤が丘病院)

肝属 千加子先生(宮田眼科病院)

演者 ・手術室での看護師の役割

金森 恵美先生(埼玉医科大学病院)

・直接介助看護師の実際

戸田 裕人先生(株式会社中京メディカル)

・術中イメージガイドシステム操作のコツ

稲村 幹夫先生(稲村眼科クリニック)

・眼科特殊器具の管理、消毒、消耗品を含む

浅野 泰彦先生(昭和大学附属東病院)

●視能訓練士/ナーシングプログラム 5

■テーマ:行うべき術後検査

座長 平田 孝浩先生(筑波大学附属病院)

須藤 史子先生(東京女子医科大学付属足立医療センター)

演者 ・術後屈折検査のポイント

上山 楓先生(北里大学病院)

・術後乱視評価ポイント

留守 良太先生(トメモリ眼科・形成外科)

・IOL ごとの術後眼鏡処方

石井 祐子先生(井上眼科病院)

・後発白内障

宮腰 晃央先生(富山大学附属病院)

●視能訓練士/ナーシングプログラム 6

■テーマ:術後合併症の対処法

座長 鶴飼 祐輝先生(金沢医科大学病院)

堀田 芙美香先生(近畿大学病院)

演者 ・白内障術後の屈折度数ずれとその対処法

玉置 明野先生(JCHO 中京病院)

・トーリック IOL の軸回転

竹原 弘泰先生(井上眼科病院)

・術後角膜障害

中谷 智先生(順天堂大学医学部附属順天堂医院)

・術後炎症(TASS、感染性眼内炎)

國重 智之先生(日本医科大学附属病院)

◆第 78 回日本臨床眼科学会

■日 時:2024 年 11 月 14 日(木)~17 日(日)

■会 場:国立京都国際会館、ザ・プリンス京都宝ヶ池

■テーマ:チーム医療とロービジョンケア

オーガナイザー 井上 賢治先生(井上眼科病院)

永井 絵美子先生(京都大学・生活習慣病看護学分野博士課程)

演者 1.リーダの役割 江口 万祐子先生(武蔵浦和眼科クリニック/獨協医科大学埼玉医療センター)

2.視能訓練士の役割 木下 雄貴先生(いでた平成眼科クリニック)

3.チーム医療内の MSW の役割と LVC 永沼 加代子先生(井上眼科病院)

4.看護師のロービジョンケアとは 栗生田 友子先生(埼玉医科大学・保健医療学部)

編集委員会より皆様へのお願い

日本視機能看護学会 編集委員会

会員の皆様におかれましては、日頃より本学会誌発刊に多大なるご支援を賜りまして誠にありがとうございます。
ます。

第9巻では、特別寄稿として、近藤寛之先生による「小児網膜疾患の診断と治療」(最新の診断・治療アプローチについて詳しく解説)、

堀内規生先生による「視覚障害者マラソンの魅力～選手の目になりきること～」(伴走者の視点から見た新たな気づきを提供)を掲載させていただくことができました。

今後も、特別寄稿については学術総会の特別講演を中心に継続的に掲載を考えております。掲載内容については、例年お願いしております会員アンケート等を活用し、皆様のご意見を参考にしながら検討してまいります。

また、論文投稿については、発刊を重ねるごとに投稿規程と投稿チェックリストを改定しながら、円滑な査読と学会誌の質の向上につながるよう努めております。

投稿していただく皆様には、必ず投稿規程およびチェックリストをご確認いただき、ご準備を進めていただきたく、ご協力をお願いいたします。

<https://www.shikinoukango.jp/journal/>

最後に、論文をまとめていただく際には、先行研究の十分なお確認と、文献を活用した客観的な考察に努めていただき、今後も、査読員の先生方のお力をお借りしながら学会誌の質の向上に努めていきたいと考えておりますので、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

2025年1月15日より、第10巻学会誌の投稿受付を開始いたします。

<https://www.shikinoukango.jp/member/exclusive/registration/> PW:shikinou2025

たくさんの投稿をお待ちいたしております。

学会誌のバックナンバーについては、J-STAGEにPDF版を登録しております。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaon/-char/ja>

会員アンケートのお願い



今後の視機能看護学会の運営を進めていくうえで皆様のご意見やご要望を教えてください。

以下の URL もしくは QR コードよりアクセスして頂きご回答いただきたくご協力をお願い致します。

また、他にも随時ご要望などございましたら、広報メール(shikinoukouhou@gmail.com)にご連絡頂くこともできますのでよろしくお願い致します。

2025 年日本視機能看護学会に関するアンケート

<https://forms.gle/b72mR5hibuC7WHAC8>



一般社団法人日本視機能看護学会 概要

【一般社団法人日本視機能看護学会 役員紹介】

名誉理事長	大音 清香	井上眼科病院
理事長	永野 美香	林眼科病院
理事	加藤 礼	真生会富山病院
理事	肝属 千加子	宮田眼科病院
理事	清水 厚子	オリンピック眼科病院
理事	山寄 淳	帯山中央病院
監事	大久保和夫	NPO 法人 HAICS 研究会 副理事長
※事務局	佐々木昌茂	株式会社ヘルスケアスクエア 代表取締役



佐々木 清水 肝属 山寄 永野 大音 加藤 大久保

■事務局所在地

〒162-0843

東京都新宿区市谷田町 3-8 市ヶ谷科学技術イノベーションセンタービル 2F

一般社団法人日本視機能看護学会

<https://www.shikinoukango.jp/>

新 e-メールアドレス: shikinoukango@shikinoukango.jp

■一般社団法人日本視機能看護学会 定款・定款細則

本学会の規則は、ホームページに公開しております。 <https://www.shikinoukango.jp/outline/>

新法人への移行に関わる変更点と年会費納入のお願い

■セキュリティと持続可能性の向上

「学会バンク」を利用することにより、個人情報保護やセキュリティが大幅に向上します。また、データベースをオフライン PC の管理から、クラウド管理にすることにより、マイページ型で自己管理でき、災害時など情報の遺失を防げ、持続可能性も向上します。

■利便性の向上

マイページ型により、勤務先や住所変更も自身ででき、また、年会費の支払いも、数種類の支払方法により利便性が格段に向上しました。

■ログインの方法

学会バンクのマイページへは、URL <https://gkb.jp/login> にアクセスしてください。

上部タブ「メールでログイン」「学会指定の情報でログイン」のうち、「学会指定の情報でログイン」に、会員番号とパスワードを入力します。

会員番号:A-0000 ハイフンが必要です 初期パスワードは、学会誌と同送しております。

年会費の納入状況をご確認のうえ、お早めに必ずお手続きください。



メールでログイン

学会指定の情報でログイン

日本視機能看護学会 JAON

ログイン先の学会

日本視機能看護学会 JAON

会員番号

パスワード

旧会員サイトでのパスワード、あるいは学会事務局より通知された初期パスワードをご入力ください。

ログイン

* 会員番号や初期パスワードをお忘れの場合は学会事務局までお問合せください
[お問合せ](#)

■退会希望の場合は、未払いの年会費債務を精算の上、事務局宛に e-メールでご相談ください。

2025 年度 一般社団法人日本視機能看護学会 事業計画

1. 理事会の開催(毎月一回 Zoom 開催)
2. 第 17 回地方分科会の開催
3. Zoom 意見交換会(隔月 Zoom 開催)
4. 第 41 回日本視機能看護学会学術総会・理事会
5. 日本視機能看護学会誌 第 10 巻の編集・発行
6. 関連学会のナーシングプログラム企画立案

収入の部		2025年度計画	備考
年会費	個人正会員年会費	720,000	6000円×120人
	施設会員年会費	1,440,000	40000円×36施設
	賛助会員年会費	250,000	50000円×5社
参加費	地方分科会	50,000	2000円×25名(非会員)
広告協賛	広告費	25,000	学会誌10巻
雑収入	文献サービス	5,000	著作権料
受取利息		100	
	A	2,490,100	
支出の部			
外注費	学会誌	880,000	学会誌+PDF
	その他印刷費	400,000	三つ折りパンフレット・小冊子等
	発送等作業	50,000	作業費
	関連事業費	100,000	東京アイフェスティバル・ロービジョンサ ポートフェア
	法人化特別予算	50,000	一般社団法人諸経費
地方分科会	地方分科会会場費等	300,000	未確定
HP管理費		100,000	
事務局委託費		480,000	
会議費		50,000	
事務用品費		30,000	
謝金		70,000	1編(基調講演)+学術総会セミナー
旅費交通費		300,000	学術総会・地方分科会
通信費		120,000	郵送費
助成金		200,000	
雑費		10,000	
予備費		50,000	
租税公課		120,000	源泉所得税・法人事業税等
支払手数料		100,000	学会バンク収納代行5.0%
	B	3,410,000	
	収支(A-B)	-919,900	

◆地方分科会の施設会員登録について(2025/03/13 追記)

【施設会員メンバーの登録】

尚、施設会員の参加希望メンバーについては、申込ページにおいて「会員」ではなく各自が「一般(非会員)」として登録・ログインしていただき、お支払い部分には「会員(施設会員メンバー)0円」として参加登録をお願いします。

その場合、個人のメールアドレスでの登録が必要となります。

【手順】

①「【非会員の方】会員でない方、一般の方は下記からお手続きください。」から、まずメールアドレスとパスワードを初回ログイン登録します。

②メールアドレスに、「下記 URL にアクセスいただき、ご登録のメールアドレス・パスワードにてログインください。ログインするとセミナー/イベントページが表示されますので、参加申込または演題投稿へとお進みください。URL・・・」という内容のメールが届いたら、URL をクリックして、参加登録を進めます。

参加希望者多数の場合は、Excel 等で期限内にお申しいただくことも可能です。

その場合は、申込必要情報(施設会員番号・施設名・所属・職種・部署・氏名・ふりがな・連絡先・グループワークの振り分け希望)を明記いただきまして、事務局までメール添付でお送りください。

グループワークの希望テーマは以下となります。

- 1 点眼指導 2 患者の治療中断・放置を防ぐための取り組み 3 高齢者の患者指導
- 4 患者に寄り添う看護 5 感染対策

編集後記

昨年は設立 40 周年を迎え、第 40 回日本視機能看護学会学術総基調講演にて大音名誉理事長より日本視機能看護学会のあゆみについて講演をいただき、時代で求められる眼科看護を痛感いたしました。今後も視機能看護に関する課題を会員の皆様と考え、共有する事でより良い眼科看護につなげていきたいと考えております。

本年もよろしくお願いいたします。

肝属

発行元

一般社団法人日本視機能看護学会

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 3-8 市ヶ谷科学技術イノベーションセンタービル 2F

発行日 2025 年(令和 7 年)2 月 25 日

改訂 2025 年(令和 7 年)3 月 13 日